

幸せな活躍

校長 舟越 裕

「幸せな活躍」という言葉は、日本語としては非常に違和感があります。この言葉は、昨年度にベネッセ教育総合研究所・パーソル（人材派遣会社）総合研究所・立教大学中原淳教授が行った、「若年就業者のウェルビーイングと学びに関する定量調査」に出てくる言葉で、「幸せに活躍している」状態と考えてください。ちなみに、ウェルビーイング（well-being）とは最近の教育界における流行語のようなもので、「健やかさ・幸福度」と訳されます。ただし、この「健やかさ・幸福度」については、人それぞれの主観によって異なっており、各人の生き方に大きく関わってきます。

この調査では、様々な観点から若者の意識を調査しており、ここでその一部を紹介します。

（1）若者層が「働くことに何を求めているか」

- ①社会の問題や困りごとを解決する仕事で、社会の持続的発展に貢献したいという想いが強い。
- ②仕事のやりがいよりも働く時間や場所を自分で選びたいという想いが強い。
- ③職場内の人間関係を重視。雰囲気の良い職場で尊敬できる人たちとの信頼関係のもと働きたい。
- ④どこでも通用する技術が身につく仕事をしたい。専門的なテーマを追求したい。
- ⑤変化の少ない、安定した環境で働きたい。
- ⑥周囲からの直接的な感謝や世間からの高い評価といった他者からの承認を得たい。
- ⑦縁の下の力持ちとして、あまり目立つことなく、人をサポートすることで貢献したい。

働くことに何を求めるかは、人それぞれです。大事なのは、**自分自身がどのような人間であり、もしくはどのような人間でありたいか、ということを追求めた上で、働くことについて考える**ことが重要だと言えます。

（2）若者層の「幸せな活躍」に結びつく学生時代の学び

- ①高校・大学時代の学びは、社会人での「幸せ」や「活躍」に影響している。
- ②高校・大学時代の学びと社会や将来を結びつける（意味づけする）こと、「能動的に学ぶこと」が、資質・能力を高める上で効果がある。また、社会課題解決への関心を高める。
- ③人を巻き込んで学ぶことで、「表現力・発想力」「国際性・多様性」を高めるとともに、様々な価値観をもつ人との協働のための「対話」力を高める。

ここでは詳しい説明は省きますが、この分析結果はおおよそ皆さんも理解できるものだと思います。ただ実際には、いま学んでいることを将来と結びつけて考えることは難しい面もあります。私は日本史の教員ですが、「鎌倉幕府の成立」を自分の将来と結びつけて考えることは困難です。

ただし、自分の生き方や考え方に結びつけること、いま学んでいることと社会と結びつけて考えることも十分に可能です。また、人を巻き込んで学ぶことも可能です。松浦高校が「まつナビ」で取り組んでいることは、まさに学びと社会とを結びつけること、人を巻き込んで学ぶことです。この調査は、松浦高校での学びの経験が、皆さんが進学した時、社会人となった時に大いに発揮されるということを示しているのです。つまり、**松浦高校で学ぶことが、将来の「幸せな活躍」につながる**ということなのです。

松浦高校での学びや生活に自信をもってください。そして、自分たちの学びをより良いものにできるように、自分たちの頭をフル回転させ、様々な人を巻き込んでください。